

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway Gordon
PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au

降誕会&年次総会を開催

5月16日(日)

昨年度は降誕会は厳修することが叶いませんでしたが、今年度は去る5月16日に、キャンベラからヒールズミス・マーク師を招いて法要を執り行うことができました。それに続き開教事務所の年次総会も無事対面で行うことができました。

この日はヒールズミス師の他、ディビッド・ソーン・ピクター&シル夫妻、三井ブラウン綾子さん、奥山裕子さん、湖城律子さん、秋吉壽和さん、ウォング理佳さん、ファング・ノーマンさん、そして家内の由紀美と私、の11人が参加して、親鸞聖人がこの世にお生まれになられ、お念仏の教えをひろめて下さったことに対し、降誕会法要を通して感謝を捧げたことでした。



降誕会に集った皆様と (16/05/21)

仏教連盟オフィスにてお荘厳され
たお内陣のようす (16/05/21)

この日の法要では「降誕会の歌」を唱和した後、『正信偈』を「十二礼」の節でお勤めし、参列者によるお焼香の後、ヒールズミス師より英語法話を頂き、続いて私から日本語の法話(次頁に法話掲載)をさせて頂きました。

引き続き開催された年次総会では、議長が選出された後、昨年度の議事録承認、令和2年度決算、開教使並びに理事からの報告、令和3年度予算並びに行事計画、等が全て全会一致で承認されました。また、今年度の理事長は昨年引き続き、ランフト・グラハムさんがもう一年引き受けてくれることとなりました。

全員で『宗祖降誕会』を歌いま
した。(16/05/21)

(2ページハフづく)

もくじ

降誕会&法話	1-3
お寺の予定表	1
eVesakに参加	3
今月のことば	3
Volunteer表彰& イフター晩餐会	4
祥月案内	4
ご 懇 念 録	4

★ お寺の予定表 - Calendar ★

Jun 6 (Sun) 11:00 am	六月祥月法要/June Shotsuki Memorial Service @BCNSW office
13 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service @ BCNSW office
20 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service @ BCNSW office
27 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service @ BCNSW office
July 4 (Sun) 11:00 am	七月祥月法要/July Shotsuki Memorial Service
11 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service @ BCNSW office
18 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service @ BCNSW office
19 (Mon)	〔本願寺報発行 / New Bulletin Issue〕
25 (Sun) 11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service (移転準備の際はキャンセル/Please confirm)
Aug 15 (Sun) 11:00 am	盂蘭盆会法要/Obon Service





お荘厳された仏花

『…世間には、うそやいつわりの言葉、中身の無い言葉ばかりで、まことの言葉はないのですが、しかしただ一つ、念仏のみがまこと(真実)の言葉なのです。…』

(本文より)



ヒールスミス・マーク師
(16/05/21)

グラハムさん、これからまた一年よろしくお願ひいたします。

本山からは、今年度も昨年度同様の助成金を引き続き受けることが確認されており、いつもご縁ある皆様から納めて頂いている会費や特別寄付と共に開教事務所の貴重な財源となっており感謝申し上げます。

また、現在の借家の事情により、7月末には移転を計画しています。まだまだお寺を建立するには長い道のりであり、再び借家となりますが、今後も地道にオーストラリアの地にて布教を継続し、遠くない将来に夢が実現するよう考えておりますので、今後ともどうぞメンバーの皆様サポーターの皆様、ご支援下さいます様宜しくお願い申し上げます。

最後に、この日お参りそして総会に参加して頂きました、ヒールスミス師、デビッドソン・ピクターさん&シルさん夫妻、奥山裕子さん、三井ブラウン綾子さん、湖城律子さん、フォング・ノーマンさん、秋吉壽和さん、ウォング理佳さん、そして家内の由紀美に深くお礼申し上げたいと思います。また、諸事情で委任状を提出して下さい下さった皆様も、本当に有難うございました。皆様のお蔭をもちまして無事に今年の総会も何とか無事に終えることができました。今後も皆様のご協力をどうか宜しくお願い申し上げます。 合掌

オーストラリア開教事務所長
渡部重信



しゅうそごうたんえ

宗祖降誕会 2021



親鸞聖人
(1173~1263年)

浄土真宗の御開山親鸞聖人は、今から818年前の1173年にお生まれになられています。本願寺では、毎年5月21日を親鸞聖人の誕生日として、降誕会をお勤め致します。

降誕会というのは、降るの降と誕生の誕とを組み合わせる言葉を使います。なぜ誕生と言わずに降誕というのかを考えてみたいと思います。

誕生の「誕」の字を辞書で調べてみますと、「うまれる」という意味の他に、「いつわる・いつわり」という意味があります。人が生まれることを誕生といい、おめでたいことだということに、その元々の意味がいつわりというのですから何か変な感じですね。

以前、御講師でいらっしゃる先生にその疑問をぶつけてみたところ、

「あなたが間違いじゃないのでは？ 私たちはうそ、いつわりだらけの世の中に生まれてくるのだから。」とおっしゃられました。

なるほど、と、妙に感心し納得してしまいました。私たちはよく「真実」という言葉を使いますが、その言葉を使う時は、大体において自分の都合に合わせたことを真実にしてしまっています。ですから、矛盾したことが積み重なっていくと真実がいくつもあることになってしまいます。そういう自分の都合中心で生きている私を、如来様は、煩惱具足の凡夫と悲しまれ、真実に生きてくれよ、南無阿弥陀仏と喚(よ)んで下さっているのです。

親鸞聖人は『歎異抄』に、「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもてそらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」

と仰っておられたと、記されています。

この言葉は、親鸞聖人が常に語っていた言葉として、『歎異抄』に伝えられています。この文の「そらごと」「たわごと」とは、「空言」「戯言」と書き、うそやいつわりの言葉、中身の無い言葉という意味です。ですから「世間には、うそやいつわりの言葉、中身の無い言葉ばかりで、まことの言葉はないのですが、しかしただ一つ、念仏のみがまこと(真実)の言葉なのです。」と親鸞聖人は

(3ページにつづく)



お焼香されるこの日お参り下さった皆様(16/05/21)



法然上人
(1133~1212年)

人生の暗闇の中をさまようように生きてきた親鸞聖人にとって、29歳の時に法然上人から受け取った「南無阿彌陀仏」のお念仏は、迷いの中に生きる自分の姿を照らし、生きる道筋を指し示してくれる言葉でした。だからこそ、ただ念仏のみが、自分の人生にとって「まこと」の言葉であると言うのです。この世の中には、うそいつわりばかりで真実はない。ただお念仏だけが真実まことなのだ。しかし、親鸞聖人といえども、自分の一人だけでこの真実の教えに出遇えたわけではなく、直接の師の法然上人を始めとする七高僧のそれぞれの教えを通じ、お念仏という阿彌陀如来さまの真実に出遇われたからこそこの言葉だと信じています。

そして、親鸞聖人は、自分を含めた全ての後世の人々に、お念仏こそが真実ですよ、と教えて下さいました。この私は、親鸞聖人がおられなかったならば、今生においてお念仏に出遇うことはなかったことでしょう。そう考えますと、親鸞聖人は、阿彌陀如来さまの真実であるお念仏を伝えるがために、うそいつわりのこの世界に降りてきて下さったのでありとしみじみ頂いた事でした。ですから、誕生と言う言葉より、降誕という言葉が相応しいと深く領解したことでした。この有難いお念仏のみ教えをこれからも皆様と共に味わっていききたいものと思うことです。

合 掌



Federation of Australian Buddhist Councils Inc.

豪仏教連盟主催 合同 e-Vesakに参加

2021年5月23日(日)



昨年、コロナ感染防止のため宗教活動が制限される中、オーストラリア各州(NSW州、VIC州、SA州、QLD

州、WA州)の仏教連盟とそこに属する仏教団体がそれぞれのお釈迦様の誕生祝の行事をオンラインでつなげて共にお祝いをしましたが、今年も同様の企画がなされ、私も日本の仏教を代表して参加させて頂きました。

NSW州からの参加が最も多く、17の仏教団体が、法要、法話、読経を通じ、それぞれの団体の僧侶や代表者たちがメッセージを共有して参加し、私も読経の部で参加させて頂きました。コロナ禍であるからこそできた企画であると有難く思い至ったことでした。5月23日にすべて出来上がり、今も視聴ができますので、是非、下のリンクよりご覧になってくださいませ。

合 掌

[Home - eVesak - Federation of Australian Buddhist Councils](https://www.fabc.org.au/e-vesak)

今月のことば

信心というの
しんじん

ぼんぶ

凡夫が

ほとけ

おな いのち

仏さまと同じ命を

きょうゆう

できごと

共有するという出来事

大峰 顕 (一九二九〜二〇一八年)
おのみね あきら

“The entrusting heart is the occurrence of the sharing of the same life between ordinary beings and the Buddha.”

by Rev Akira Ohmine (1929 - 2018)



真宗教団連合刊

「2021 令和3年 法語カレンダー / Dharma Words」より



ロイヤルノースショア病院より 20年間のボランティアに対する 感謝状を渡部開教使が授与される 2021年5月18日(火)



病院のボランティアオフィスで
コーディネーターをしている、
キャンディスさんより賞状を授与
されました。(18/05/21)



表彰式での様子
(5月18日)

シドニーに渡部開教使が
2000年8月に着任し、直後
から申請を始め、翌年RNS
病院での仏教のチャプレン
として登録されて以来仏教
患者を見舞うボランティア
を続け、それが今年で20年
経ったことを受け、病院の
ボランティアオフィスより
感謝状が贈られました。

毎年、5月に行われている
国を挙げてボランティアに
感謝を示す期間のボラン
ティア・ウィーク(今年は5
月17~23日)も合わせ、渡
部開教使がチャプレンをし
ているRNH病院でも、全て
のボランティアを集めて表
彰式を行われ、渡部
開教使が5月18日
に行われ、20年間
ボランティアを続け
たことへの感謝状が
贈呈されました。合掌

アフィニティ文化交流基金主催 イフター晩餐会に出席 2021年5月6日(木)



主催者のアーメット氏と



招かれていたNSW仏教連
盟のデイビース議長と

例年、NSW州のパラメント
ハウス(州会議事堂)内で行われて
いて、昨年はコロナ禍の為に中止
されたアフィニティ文化交流基
金主催のイフター晩餐会が、去
る5月6日にシティのフー
ラートンホテル最上階のホール
にて二百人以上の招待者を集め
開催され、渡部開教使も出席し
主催者代表のアーメット氏との
旧交を温めたことでした。

アフィニティはイスラムの教
えを基本に、ラマダンの期間に
友人を招待し、相和して、布
施を行い、自己を省み、慈悲の
心を啓発することを目的に、日
没後に食事を供与することが最
高の行と位置づけされているこ
とを受けてのイフター晩餐会で
あり、この日招いて下さった全ての主催者の方に感謝
を捧げた夕べでした。

合 掌



六月の祥月法要

June Shotsuki Memorial Service

Browne, Leonard Keith ブラウン・レン様 (2016)
Nakamura, Torao 中村 寅雄 様 (1984)
Hayashi, Chima 林 ちま 様 (1995)

上記の方々が6月に祥月を迎えられました。6月
第一日曜の6日の午前11時より祥月法要が無事に
とり執り行われました。合掌

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude

この一ヶ月間で、下記の方々より総計 1,060ドルのご懇志をご進納頂きました。有り難うございました。また、お賽銭箱に
は、計15ドルが浄財として参拝者より喜捨して頂いておりました。この浄財は本願寺設立基金へ進納されました。有り難う
ございました。 合掌

In the past month, donations to the amount of \$1,060.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia.
HBMA members and attendants have also deposited \$15.00 in the donation box which also deposited to the Hongwanji Temple of Sydney Building
fund. The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Ms Chieko Hartono - Pledge membership contribution
- * Ms Ayako Mitsui-Browne - Donations
- * Mr Hisakazu Akiyoshi - Donations
- * Buddhist Council of NSW - Chaplain fund
- * Japan Club of Sydney - Honorarium for printing (May & June)

Thank you very much in Gassho





Rev Watanabe received Certificate of Appreciation for 20 years volunteer work at Royal North Shore Hospital



(Left) Invitation letter for the Volunteer Appreciation Day 2021. (Top) Rev Watanabe received the certificate of Appreciation from Candice Peters, Volunteers Coordinator of RNSH. (18/05/21)



Certificate of Appreciation for Rev Watanabe, recognising 20 years dedicated volunteer service at the RNSH



Ms Barbara Burke (centre), other Buddhist chaplain who received 5 year certificate, and Rev Keith Walker (left), Presbyterian Church full time chaplain congratulated Rev Watanabe's award (18/05/21)



Volunteer awards presentation were held in the theatre room of the Kolling Building RNSH. (18/05/21)



BULLETIN



Special pin to recognise the 20 years volunteer

ciation" and a special pin for volunteers who had marked 20 years of service.



Rev Watanabe with other recipients

Rev Watanabe invited to attend the 12th NSW Parliament Friendship & Dialogue Iftar Dinner on 6 May 2021 at The Fullerton Hotel, Sydney



On 6 May, Rev Watanabe attended another Iftar Dinner at the Fullerton Hotel organised by Affinity Intercultural Foundation, also co-hosted by NSW Parliamentarians, the Hon. Geoff Lee, MP and Ms Sophie Cotsis, MP.



Rev Watanabe with Mr Ahmet Orhan Polat, Executive Director of Affinity Intercultural Foundation. (06/05/21)

This gathering usually takes place at the New South Wales Parliament. However, due to the circumstances, they held this special dinner at Fullerton Hotel instead, observing the Covid-safe regulations.

For all Muslims, this is a very important observance.

During this holy month of Ramadan, they believe that we must give special attention to Unity, Giving, Reflection and Compassion. Therefore they invite their friends to come to their place and share dinner.



With Mr Gawaine Powel Davies, Chairperson of Buddhist Council of NSW. (06/05/21)

Thank you Mr Ahmet Orhan Polat for always inviting Buddhist representatives to share your special Day!



Muslim participants who were at the same table of Rev Shig

Reception was held at the historical Ball Room of the top floor. (06/05/21)

tice of nembutsu in seclusion is impossible, practice it with other nembutsu devotees. Conversely, if practice with other devotees is impossible, recite in seclusion. Food, clothing, and housing are considered to be supporting elements for nembutsu. In summary, if all acts and conditions mentioned above truly promote the attainment of birth with a tranquil heart in the Pure Land through nembutsu, they are regarded as the supporting elements for nembutsu.'

The Promise of Amida Buddha: Hōnen's Path to Bliss. Wisdom Publications, 2011, p318

Hōnen Shōnin always emphasised the one big thing – just say the nembutsu and be saved by Amida – as did Shinran Shōnin.

And the faith, the awakening, the *shinjin* that was the same in the Indian and Chinese teachers that Hōnen Shōnin discovered, was the same in him as it was in his successor Shinran Shōnin. It is what Shinran Shōnin taught as well. *Shinjin* is always the same because it is not our practice, but is the practice of Amida Tathagata.



Shinran Shōnin
1173 - 1263

*

It is my usual practice when I begin to think about preparing a Dharma talk – before I begin forming any thoughts of what I will say – to open *The Collected Works of Shinran* at random. This time the concept of the fox and the hedgehog came first, but I still opened the book, and number 34 of the *Hymns of the Dharma-Ages* caught my attention.

'Through the compassion of Śākyamuni and Amida, We have been brought to realise the mind that seeks to attain Buddhahood. It is by entering the wisdom of *Shinjin* that we become persons who respond in gratitude to the Buddhas' benevolence.'

(The Collected Works of Shinran Volume I, Jodoshinshu Hongwanji-ha, 1997, p407)

Here it all is – the BIG IDEA in a nutshell. Shinran Shōnin teaches it again and again in his writings. He must have done the same face to face with those he taught when he was alive, and this is what he must have been taught by Hōnen Shōnin. Rennyo Shōnin transmits the same ideas in his letters –; he repeatedly (and especially) emphasises the mind of gratitude that *shinjin* engenders.

Śākyamuni Buddha – our first teacher in this world – compassionately gifted to humankind the universal and eternal truth of the Pure Land teachings, the truth of the all-embracing compassion of Amida Tathagata.



Amida Buddha

The Pure Land teachings have been passed on to we who are alive today by those who preserved, transmitted and expanded on the teachings of Śākyamuni. By saying the *nembutsu* we are brought to realize – by being given the mind of Amida Tathagata – the mind that seeks to attain Buddhahood.

Śākyamuni Buddha revealed this by transmitting to us the 18th Vow of Amida Tathagata – the Vow that reveals the way of the *nembutsu*. We say the *nembutsu* and hear Amida Tathagata's call. We are embraced by His light. He hears our call and by way of His eternal practice of all virtues gives us the awakening that is *shinjin*. And so we shall continue to say the *nembutsu* in eternal gratitude to Amida Tathagata for the rest of our lives.

in Gassho,



Federation of Australian Buddhist Councils Inc.

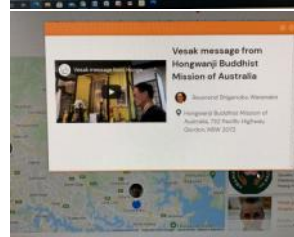
Rev Watanabe once again participated in eVesak celebration online event organised by the Federation of Australia Buddhist Councils Inc on 23 May 2021



eVesak site on internet (23/05/21)



Rev Watanabe was once again invited to join the nationally-organised online event, called ***"eVesak - Celebrate the birth, enlightenment and death of Gautama Buddha."***



This ceremony was organised by the Federation of Australian Buddhist Councils Inc. and Buddhist Councils across Australia, including New South Wales, Victoria, Queensland, South Australia and Western Australia. This online celebration event was recorded beforehand and broadcasted on the internet at 4pm(AEST) on Sunday 23 May. You may still watch it at the following site.

[Home – eVesak - Federation of Australian Buddhist Councils](https://www.fabc.org.au/evesak)

DHARMA TALK by Rev Mark Healsmith

THE FOX AND THE HEDGEHOG

I have recently read a book called 'Spreading Buddha's Word In East Asia: *The Formation and Transformation of the Chinese Buddhist Canon*.' (Edited by Jiang Wu & Lucille Chia, Columbia University Press, New York 2020). Although the book was rather more technical and academic than I had hoped for, it was interesting none-the-less, and it taught me — yet again — how extensive and diverse are the teachings of the Buddha dharma. There are traditionally said to be 80,000 teachings — the number is conventional and symbolic, of course — but the number is there to tell us that there is a teaching for every being, every realm, and every time. Be that as it may, we ordinary people are bound to our worldly lives by our karmic destinies in this life in this time — the time of the decline of the Dharma. We are bound by our karmic evil, by love, hate, ignorance and desire. We are bound by and to the terror and the glory of everyday life. Since beginningless time we have been swept from life to life. But, despite all this, due to good karmic conditions we *bonbu* at last meet the vast and wonderful teachings of the Buddha, but then what?

So, due to our karmic causes and conditions, we are drawn to the Dharma, but if there are 80,000 teachings, where to begin?

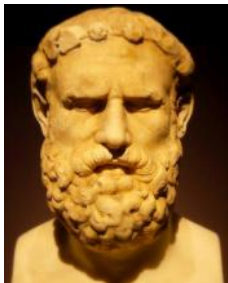
The aphorism 'the fox knows many things, but the hedgehog knows one big thing' is attributed to the ancient Greek poet Archilochus and has been used over many years by many cultural thinkers and commentators.

In the modern context it is usually used to divide writers and thinkers into 'foxes' — those who draw on a wide variety of experiences and for whom the world cannot be boiled down to a single idea, and 'hedgehogs' who view the world through the lens of a single defining idea. It is an amusing intellectual game to divide up thinkers and writers according to this framework. We could also, perhaps, consider how to approach the many teachings of the Buddhadharma in this way, but with the foxes being those who follow the path of the sages and attempt to master the intricacies of the many moral, intellectual and spiritual/meditative teachings, and the hedgehogs being those who teach the Pure Land teachings, and we *bonbu* when we meet these teachings.

Consider our founder Shinran Shōnin's teacher, Hōnen Shōnin. In his early life as a monk, Hōnen Shōnin is



Rev Mark sharing his message(16/5/21)



Archilochus



BULLETIN

said to have read the entirety of the Buddhist Canon to which he had access. He kept the precepts all his life and achieved the *nembutsu* samadhi. He knew many things. But in his reading and his contemplation on what he read, he found the teachers who would lead him to the one big thing. In the Pure Land Sutras, and in the commentaries — especially the work of Chinese Master Shandao — Hōnen Shōnin found the one big thing and entered the unbroken but temporally discontinuous lineage of the Pure Land Masters. Learning that all his teachers had the same faith as him he found the big idea to teach — the 18th Vow of Amida Tathagata — or the Primal Vow.



Hōnen Shōnin



Master Shandao

We all know the 18th Vow:

'If, when I attain Buddhahood, sentient beings in the lands of the ten directions who sincerely and joyfully entrust themselves to me, desire to be born in my land and call my Name even ten times should not be born there, may I not attain perfect Enlightenment. [...]

This is a Big Idea indeed. It is THE big idea. And Hōnen Shōnin taught it to all who came to him. He taught:

'No practice other than nembutsu is taught in the essential [18th] vow of Amida Buddha. Even though other practices are excellent, they are not superior to nembutsu. In general, if you desire to be born in a pure buddhaland, then follow the vow of that buddha. [...]there is no better practice than nembutsu for the attainment of birth in the Pure Land.'

The Promise of Amida Buddha: Hōnen's Path to Bliss. Wisdom Publications, 2011, p227

And to emphasise the primacy of the nembutsu, he further taught:

'If one cannot practice nembutsu as a monk, one should take a wife and recite nembutsu. On the contrary, if one cannot practice nembutsu with a wife, one should recite nembutsu as a monk. If staying in one place makes nembutsu impossible, go on a pilgrimage and practice nembutsu. Conversely, if nembutsu is difficult on pilgrimage, stay in one place and recite nembutsu. If poverty hampers nembutsu, seek support and recite nembutsu. If the practice of nembutsu is impossible in spite of support, depend on one's own resources to repeat nembutsu. If the prac-

(Continues on page 3)

BULLETIN

Volume 22 - No. 4
Jun 15, 2021

Hongwanji Buddhist Mission of Australia



PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mob : 0412 - 396 - 014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au

2021 Gotan-e and HBMA Annual General Meeting was successfully held on 16 May 2021



L-R : Mrs Gill and Mr Victor Davidson, Mr Norman Fung, Ms Rika Wong, Ms Ritsuko Kojo, Rev Mark Healsmith, Rev Watanabe, Ms Ayako Mitsui-Browne, Mr Hisakazu Akiyoshi, Ms Hiroko Okuyama. (16/05/21)



We were so fortunate to have been able to observe our 2021 Gotan-e service on 16 May 2021 at the office of Buddhist Council of NSW. This included a face-to-face Annual General Meeting in the presence of Rev Mark Healsmith from Canberra, our members and Dharma friends.

We all expressed our highest respect and gratitude to Shinran Shonin, the founder of Jodo Shinshu, and celebrated his birth into this world.

During the ceremony, we first sang a Gatha *Shuso Gotan-e* (Founder's birthday) which was followed by the chanting of *Shoshin-ge* in the special style used for Gotan-e (known as *Ongaku Hoyo*).

Then, Rev Mark shared a Dharma message for Gotan-e in English and I delivered the Japanese message for this special day (Rev Mark's message is on the following page).

The Gotan-e service was followed by the 2021 Annual General Meeting.



Revs Healsmith and Watanabe. (16/05/21)



Naijin was beautifully set in the Buddhist Council office. (16/05/21)

Inside This Issue

Gotan-e and AGM were successfully held	1
Rev Healsmith's Dharma message	2-3
eVesak of Federation of Australian Buddhist Councils	3
RNSH Volunteer Award presentation/ Iftar Dinner	4



Shinran Shonin
1173-1263

After reciting Nembutsu, the AGM was convened. I was again elected as Chairperson. All activities of the HBMA during the year, and financial reports were presented. The new budget for the current calendar year was approved. Everyone also agreed that the need and hopes for the continued existence of HBMA remained very high, and that the mission should continue functioning here in Sydney into

the future. We are now planning to relocate the HBMA office and minister's house. Therefore, whatever help you can give will be greatly appreciated. Please share your thoughts about our mission with us.

The membership of the Board remains as before. Mr Graham Ranft, will continue as president for another year. So please give your full support to our Board of Directors by attending the services. Thank you Graham-san for serving as a president for one more year! Another big "Thank you" to Rev Mark Healsmith, Mr & Mrs Victor and Gill Davidson, Ms Ritsuko Kojo, Mr Norman Fung, Ms Hiroko Okuyama, Ms Ayako Mitsui-Browne, Mr Hisakazu Akiyoshi, Ms Rika Wong, and Yukimi for joining the AGM! All of the devotion of these people as well as those who wanted to join but could not make it because of other commitments and submitted proxy letters, showed their concern towards our mission. They are very much appreciated. Together, let us carry our HBMA forward.



Mr Davidson(top), and Ms Kojo (16/05/21)



In Gassho,
Rev Shigenobu Watanabe